

**製品名: CD1D ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08263**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	37kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CD1D
別名	CD1D; Antigen-presenting glycoprotein CD1d; R3G1; CD1d
遺伝子 ID	912.0
SwissProt ID	P15813
免疫原	抗原提示糖タンパク質 CD1d 由来の合成ペプチド (アミノ酸範囲: 161-210)

**背景**

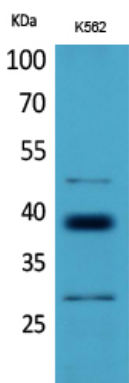
この遺伝子は、膜貫通糖タンパク質 CD1 ファミリーの異なるメンバーをコードします。CD1 ファミリーは構造的に主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) タンパク質と関連し、 $\beta$ 2 ミクログロブリンとヘテロ二量体を形成します。CD1 タンパク質は、主に自己または微

生物由来の脂質抗原および糖脂質抗原を T 細胞に提示する役割を果たします。ヒトゲノムには、1 番染色体上にクラスター状に配列した 5 つの CD1 ファミリー遺伝子が含まれています。CD1 ファミリーの各メンバーは、細胞内局在および特定の脂質リガンドに対する特異性が異なると考えられています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞質末端のチロシンをベースとしたモチーフを介して後期エンドソームおよびリソソームに局在します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq 提供、2016 年 1 月],機能: 自己および非自己糖脂質に結合し、ナチュラルキラー T 細胞上の T 細胞受容体に提示する抗原提示タンパク質。 ,その他: タンパク質合成および成熟過程において、CD1 ファミリーのメンバーは内因性脂質に結合し、タンパク質が内部移行してエンドソームを通過した後、細胞表面に戻る前に脂質抗原または糖脂質抗原に置換される。 ,類似性: 1 つの Ig 様 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。 ,細胞内局在: 細胞膜、エンドソーム、リソソーム間の細胞内輸送を受ける。 ,サブユニット: B2M ( $\beta$ 2 ミクログロブリン) とのヘテロ二量体。 MHC II と相互作用する。 ,組織特異性: 皮質胸腺細胞、特定の T 細胞性白血病細胞、その他様々な組織に発現する。 ,

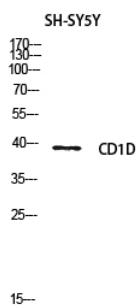
## 研究分野

造血細胞系統;

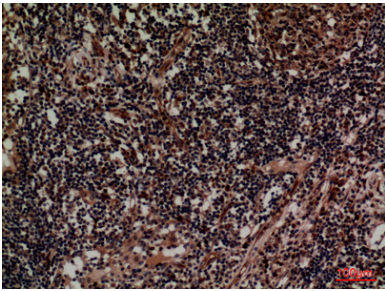
## 画像データ



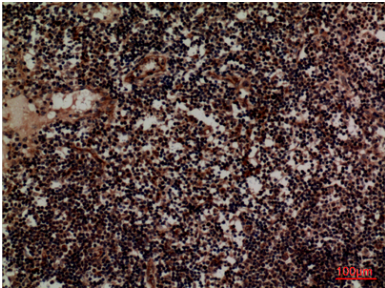
CD1D ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



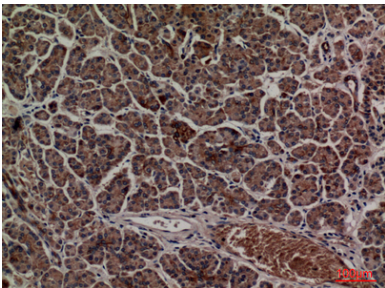
CD1D 抗体を用いた SH-SY5Y の溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



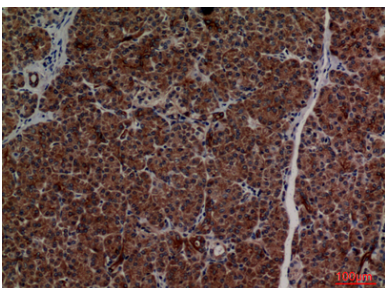
パラフィン包埋ヒトリンパの免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒトリンパの免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脾臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脾臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された